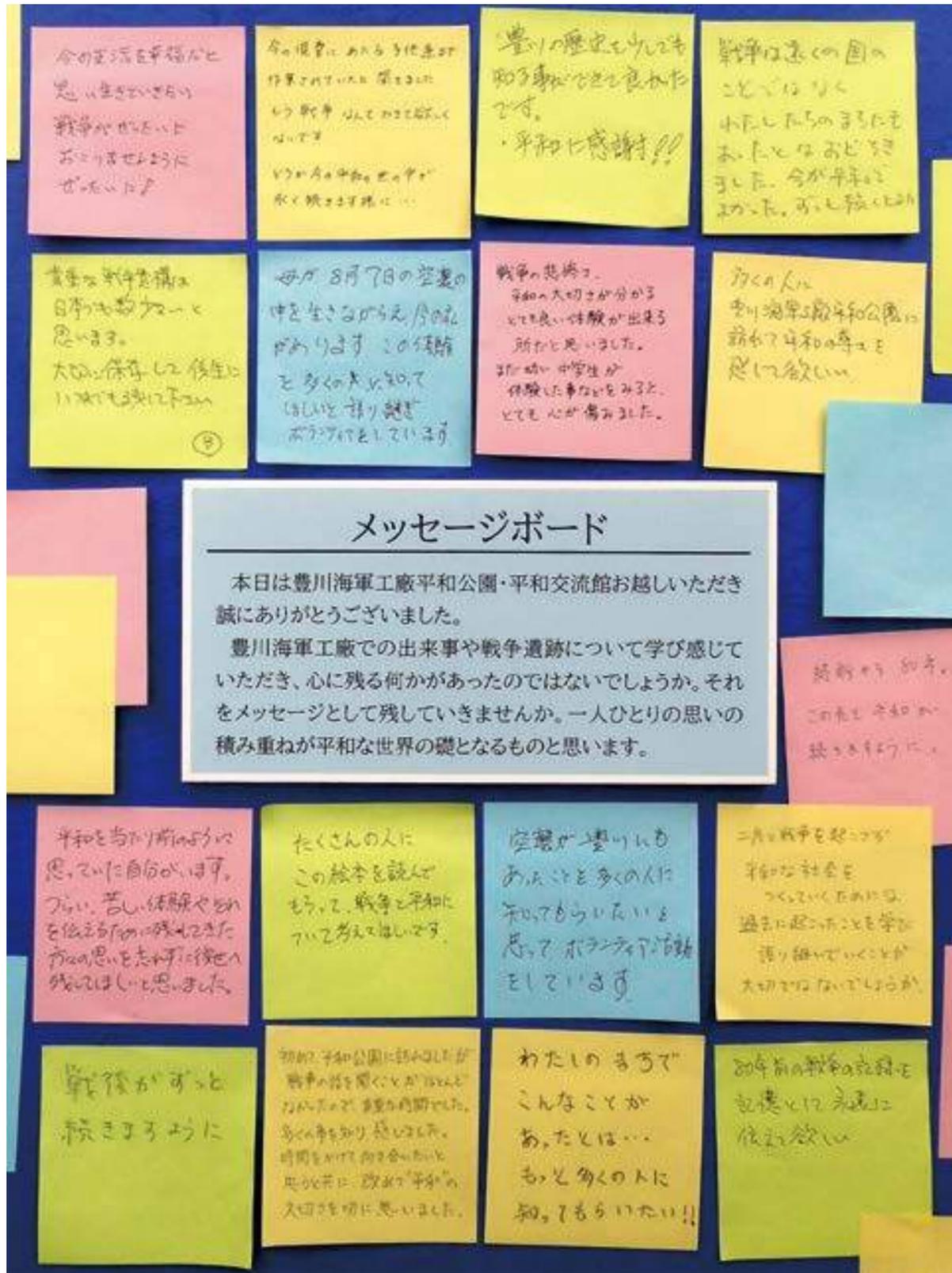


あの 八月七日

あの
八月七日



豊川市教育委員会



メッセージボード

本日は豊川海軍工廠平和公園・平和交流館お越しいただき誠にありがとうございました。

豊川海軍工廠での出来事や戦争遺跡について学び感じていただき、心に残る何かがあったのではないのでしょうか。それをメッセージとして残していきませんか。一人ひとりの思いの積み重ねが平和な世界の礎となるものと思います。

発行：豊川市教育委員会
 発行日：2025（令和7）年8月7日
 作成協力：豊川海軍工廠語り継ぎボランティア



かた つ とよかわかいぐんこうしょう
 語り継ぐ豊川海軍工廠

とよかわかいぐんこうしょう とうよういち へいき こうじょう かいぐん ふね
 豊川海軍工廠は、かつて東洋一の兵器工場といわれ、海軍の船や

ひこうき つか きじゅう せいざん
 飛行機で使われる機銃などを生産していました。

しょうわ ねん がつな のか だいくしゅう かいめつてき ひがい う たさう
 1945（昭和20）年8月7日の大空襲で壊滅的な被害を受け、多数の

ぎせいしゃ ふしょうしゃ だ かな できごと せんごひとびと きおく のこ
 犠牲者や負傷者を出し、悲しい出来事として戦後人々の記憶に残り、

かた つ
 語り継がれてきました。

とよかわし へいせい ねんど とうじ たてもん いちぶのこ
 豊川市では、2018（平成30）年度に当時の建物などを一部残した

とよかわかいぐんこうしょうへいわこうえん せいび とよかわかいぐんこうしょう できごと つう
 豊川海軍工廠平和公園を整備し、豊川海軍工廠での出来事を通じて

せんそう ひざん へいわ とうと つた
 戦争の悲惨さと平和の尊さを伝えてきました。

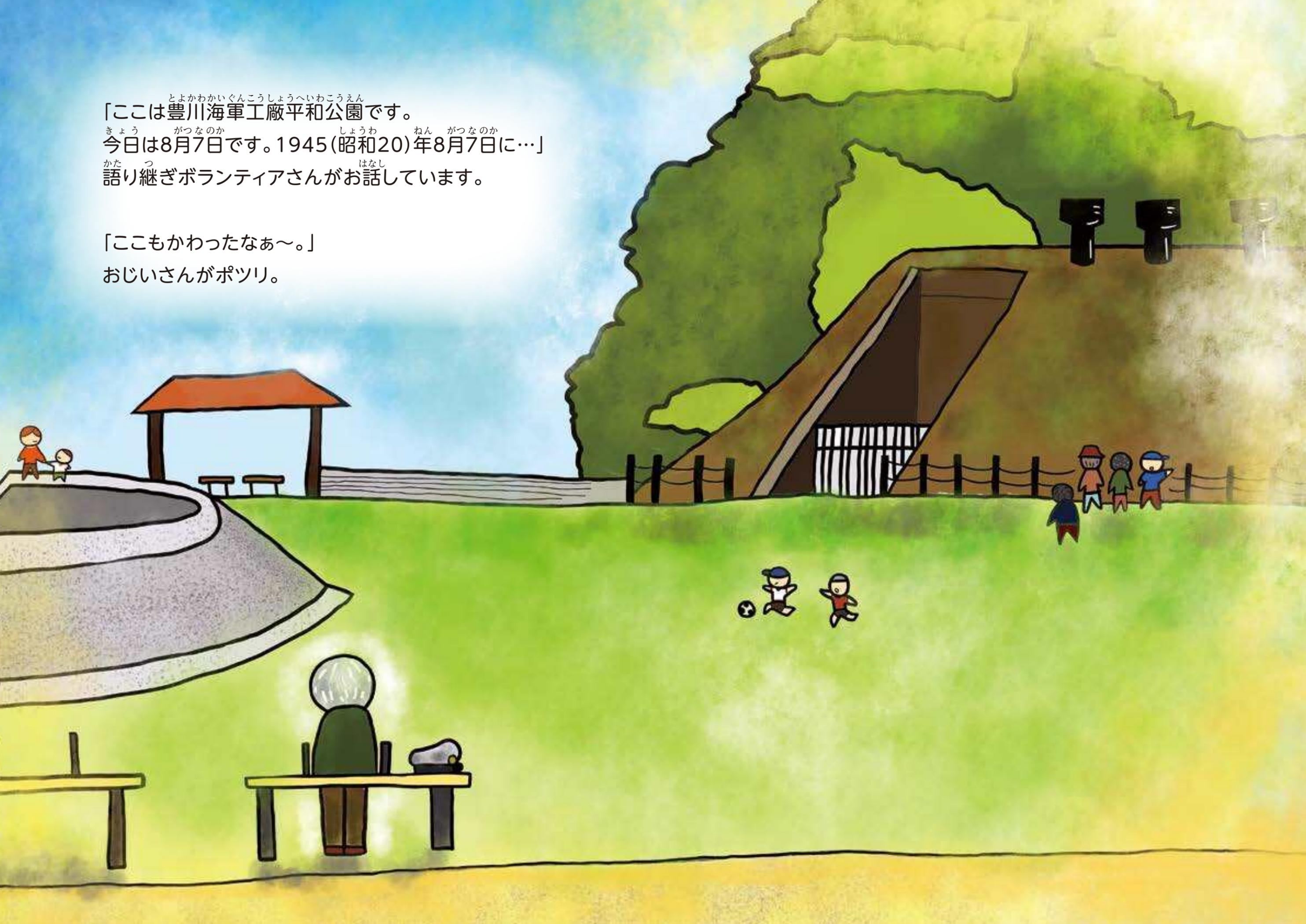
せんご ねん ふしめ むか たいけんしゃ なか え
 戦後80年という節目を迎え、体験者がいなくなりつつある中で、この絵

ほん よ こ みらい きず いちじょ ねが
 本を読んだ子どもたちがよりよい未来を築く一助になることを願います。

れいわ がつな のか
 2025（令和7）8月7日

「とよかわかいぐんこうしょうへいわこうえんここは豊川海軍工廠平和公園です。
きょう がつなのか今日は8月7日です。しょうわ ねん がつなのか1945(昭和20)年8月7日に…」
かた つ はなし語り継ぎボランティアさんがお話しています。

「ここもかわったなあ～。」
おじいさんがポツリ。





「おじいさん これなに？」
こ
子どもが近づいて来ました。

「これは、わたしの
にい ぼうし
兄さんの帽子だよ。」

「なんか古いね。」

「そう、あれから80年
ねん
も
たったからね。」

おじいさんの昔の話を
むかし はなし
き
聞いてくれるかい。」

これが、ぼくのおじいちゃん、おばあちゃん、
お父さん、お母さん、勝一お兄ちゃんと、
妹のモモちゃん、そしてぼく勝次の7人家族。



ぼくのお父さんは、^{とう}近くにある
^{とよかわかいぐんこうしょう}豊川海軍工廠っていう、
^{こうじょう}どでかい工場^{はたら}で働いてるんだ。
ここでは、^{かいぐん}海軍の^{おお}大きな^{ふね}船や
^{ひこうき}飛行機^{きじゅう}の機銃と^{だんがん}弾丸なんかを
つく
作ってるんだ!



ちゅうがくせい おんな ひと
中学生や女の人もおおぜい、
あさ よ なか こうたい
朝から夜中まで交代で
はたら
働いてるんだって。



ある日、お父さんは兵隊になって
遠くに行くことになった。
おばあちゃんもお母さんも泣いてたよ。
ぼくもなんだか悲しくなってきた。





こんど にい かいぐんこうしょう はたら
今度はお兄ちゃんが海軍工廠で働くことになった。
ちゅうがく りょう はい
中学のみんなといっしょに寮に入るんだって。

かえ こ
「もう帰って来ないの?」

よる こうたい はたら やす ひ あそ
「夜も交代で働くから…。休みの日にまた遊ぼうな。

ぼうし
この帽子、かっちゃんにやるよ。」

だいじ ちゅうがっこう ぼうし
「えっ!大事な中学校の帽子だよね。」

にい がっこう い
「兄ちゃんはまだ学校にも行かないし…。

だいじ
大事にしるよ。」

第七男子寄宿舎

きょう ねんせい うんどうじょう ばたけ
今日は、3年生が運動場のイモ畑の
くさと ひ
草取りをやる日。

あつ
「暑いなあ〜。」

とう せんそう
「かっちゃんのお父さんは戦争に
い
行っちゃったんだよね。」

えき おく
「そうだよ。駅まで送ってったんだ。」

とう せんそう い
「ぼくのお父さんも戦争に行くって。
ねえ こうしょう はたら い
お姉ちゃんも工場で働きに行ってるし。」

い とも な
そう言って友だちのたっくんは泣きだした。

にい りょう はい
「ぼくのお兄ちゃんも寮に入っちゃったよ。」

ほんとう な
本当はぼくも泣きそうだった。



がっこう 学校に行っても こうがくねん 高学年は
たけ くんれん 竹やりの訓練をしてるよ。
ぼくたちは ちい 小さいから、み 見るだけ。





きょう がつなのか
今日は8月7日。

「あ～あ、きょう あさ ぼたけ
草取りだよ。」

カンカンカン、カンカンカン

てき ひこうき き し
敵の飛行機が来たことを知らせる
カネが鳴った。

ばくだん お こわ
「爆弾落とされるかも。怖いよ。」

たつくんは ^{みみ} 耳をふさいだ。

ひなん びーにじゅうく ずきん
「避難しろ!B29だ!頭巾かぶれ!!」

せんせい こわ かお さけ
先生が怖い顔で叫んでいる。

に に
「逃げろ!逃げろ!」

たす
「助けて!」

はや はや
「早く!早く!」

みんな ぼうくう ごうへ はし
みんな防空ごうへ走った。

「たっくん、行くよ!」

こわ
怖がるたっくんを引っ張って

ぼうくう と こ
防空ごうに飛び込んだ。



ザザザ、ドカーン、ドカーン

「こわいよ、^{たす}助けて。」

「お父さん、お母さん。」

みんなは^{さけ}叫んでる。

「大丈夫だ!じっとしてるんだぞ。」

先生は^{せんせい}大きな^{おお}声で^{こえ}みんなを^{あんしん}安心させてくれた。





しず
静かになって外に出ると
かいぐんこうしょう も
海軍工廠が燃えていた。

「わたしの家のほうだよ。お母さ～ん。」

「あ～、工廠がやられちゃったよ。」



「お姉ちゃんが、お姉ちゃんが、今日は工場に
行ってるんだよ。お姉ちゃん…。」

たっくんが泣き出した。

「ぼくのお兄ちゃんも働いてるよ。」

ぼくは、お兄ちゃんの帽子をぎゅっと握った。

「きっと大丈夫だ。」

心の中で叫んだ。



ぼくは急いで家に帰った。

「かっちゃん、よく帰ってきたね。」

「どこもケガはしとらんかん。よかった。よかった。」

お母さんとおばあちゃんが喜んでくれた。

「お兄ちゃんは？」

「今、おじいさんが見に行ってくれとるでね。」



しょういち ぶじ
「勝一、無事でおってくれよ。」
おじいちゃんは、
お兄ちゃんをさがしに行った。



かいぐんこうしょう も
海軍工廠は燃えていた。

ま くら けむり み
真っ黒な煙でなにも見えなかった。

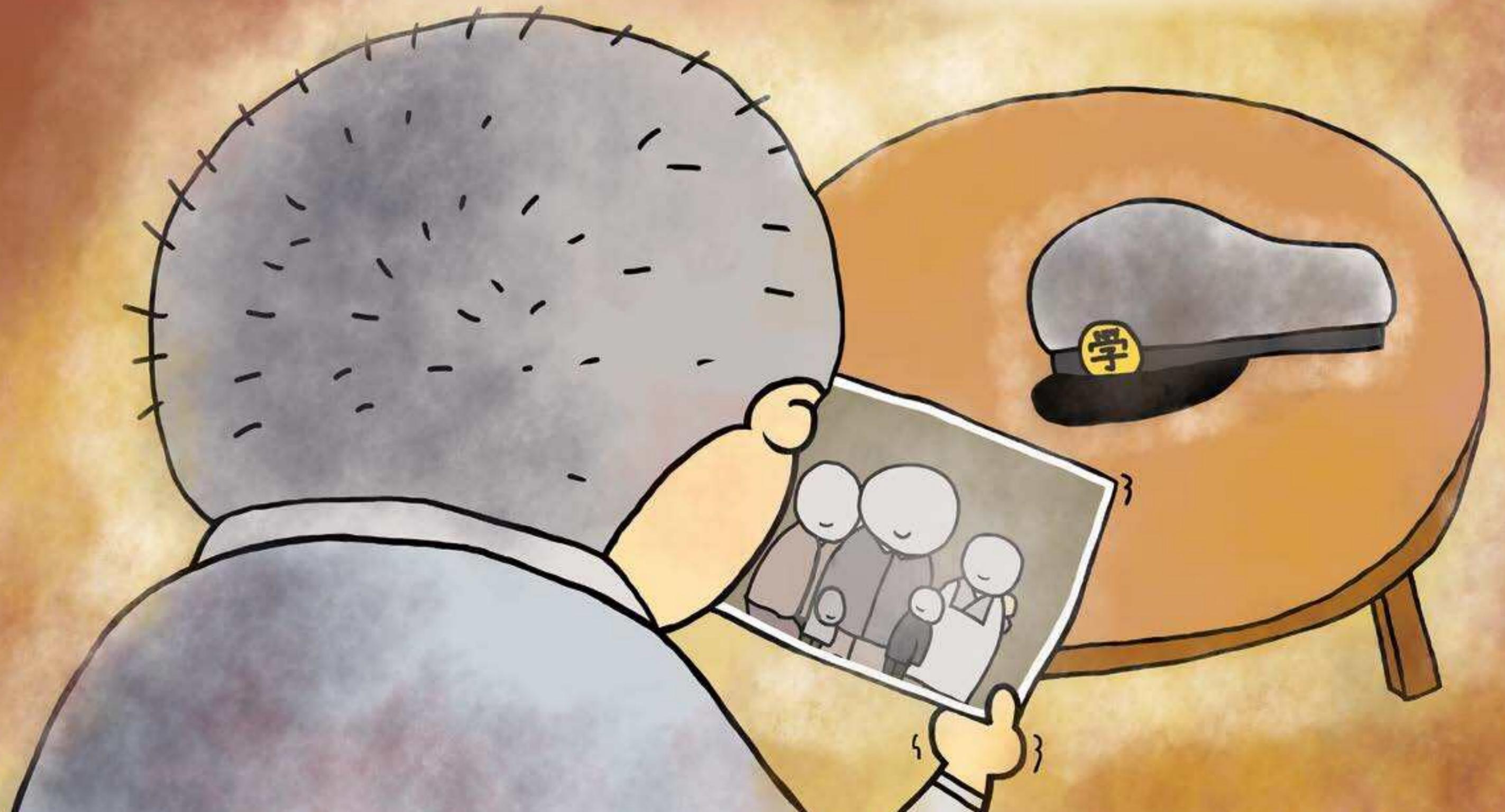
なんにち なんにち かあ
何日も何日もおじいちゃんとお母さんは

にい さが い
お兄ちゃんを探しに行ったけど…。

にい かえ こ
お兄ちゃんは帰って来なかった。



8月15日、戦争は終わりました。
そして、兄の帽子だけが残りました。



「そんなことがあったんだ…。」

この帽子はおじいさんにとって忘れられないものなんだね。」

「ここには豊川海軍工廠がありました。」

ここでのできごとを語り継ぐ

ボランティアさんの声が

聞こえます。

